

# LHR 人権教育における福島第一原発事故の風評被害の考察

2026/2/12

岐阜県立岐阜高等学校 伊藤誠人

実施日 2025年11月6日 2年2組 36名

## 1 研究のねらい

2011年3月11日の東京電力福島第一原子力発電所の事故から15年もの月日が経過しようとしている。当時高校生だった私は、起きたばかりの地震と事故のニュースがあまりに衝撃的で、そのときの恐怖心を今でも鮮明に覚えている。

一方、現在の高校生にとってみると、この事故は物心がつく前の出来事である。さらに、あまり縁のない福島県という遠方で起きたということも相まって、この事故に関わる出来事を「日本の歴史」というような、一歩引いた認識の生徒もいる。そのため、事故によって福島県が受けた風評被害が、現在まで福島県民を苦しめているという事実を知らない生徒も散見された。この状況を打破するため、本校で実施している人権LHR（ロングホームルーム）で、これらの認識の改善をはかった。

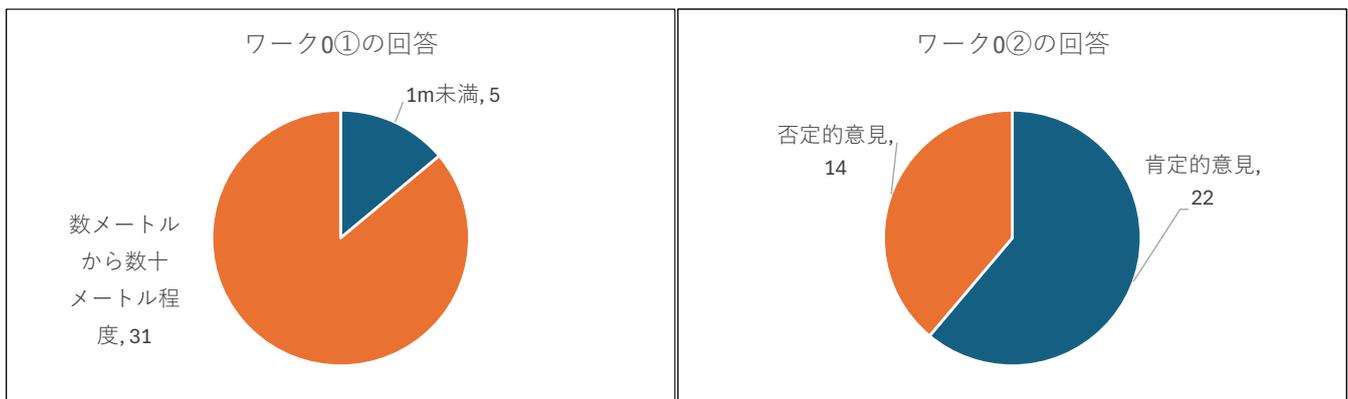
人権に関する授業は座学であることが一般的である。しかし、本授業では、私が採取した福島県の土壌サンプルを用い、その放射線量を実際に測定して、そこから風評被害を考えさせた。この、一風変わった授業展開で、新しい刺激を生徒に与え、より深く考察することも目的とした。

## 2 実践した内容と生徒の回答

本校では、「ひびきあいの活動」と称した人権LHRを、年に1回クラスごとに実施している。学年ごとにテーマが決まっており、それに沿って各クラス担当が授業を考案する。私が今年度担任している2年生（理系クラス）は、「社会の身近な人権問題（差別、偏見）」というテーマであった。

人権LHRでは、別紙のワーク0～ワーク3とワーク+αの中で、実際に放射線量を測定し、福島県の風評被害の現状や改善について考えさせた。以下では、各ワークの生徒の回答を報告する。

### ワーク0①②③の回答



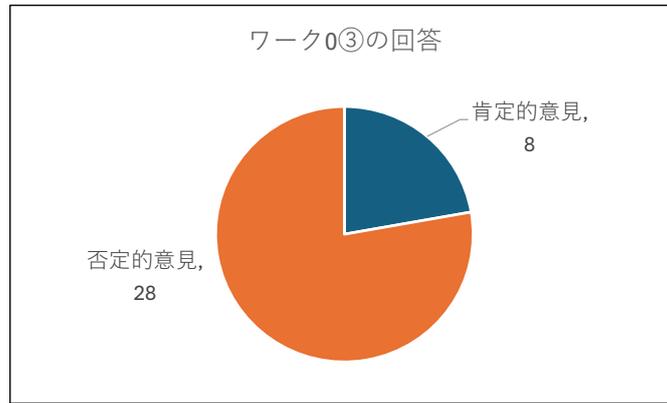


図1 ワーク0の①②③回答

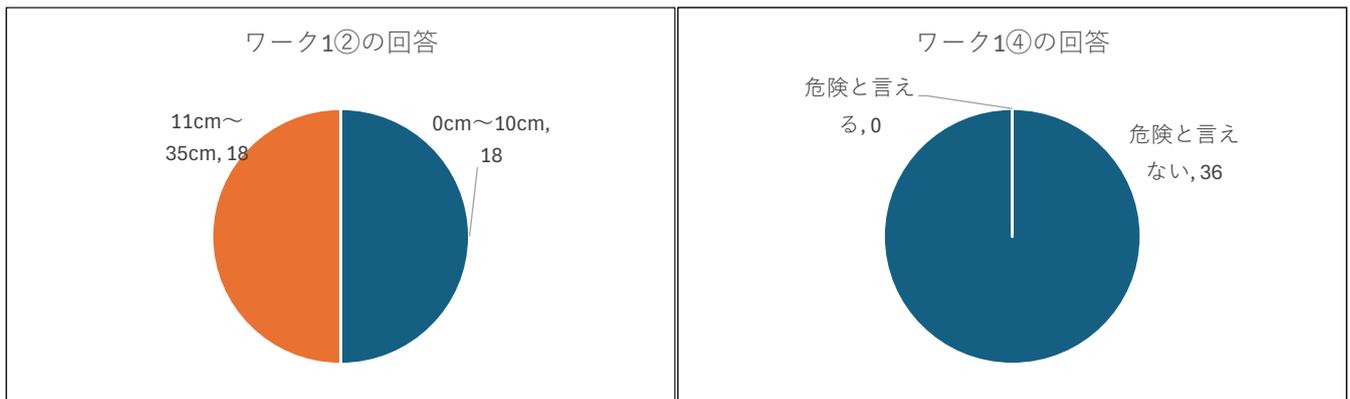
②について

- 肯定的な意見の例：「すでに安全である」「人体に影響はほとんどない」「何も思わない」
- 否定的な意見の例：「福島県産のものと福島県産以外のものがあれば、後者を選びそう」「まだ危険という先入観がある」「いざ、自分が福島県に行けと言われたら少し怖い」

③について

- 肯定的な意見の例：「安全だと伝えるために購入したい」「国の定める条件を満たしているのなら安心」
- 否定的な意見の例：「事故直後で、基準を満たしていないと考えられるから食べたくない（または満たしていたとしても心配で買わない）」「率先して食べようとは思わない」「他の人が買った後、問題なければ買う」「なんとなく疑ってしまって買わない」

ワーク1②④の回答（①③は各生徒の測定および計算のため、結果を省略）



ワーク1②④の回答

②について

- ワーク0の予想を大幅に下回る結果に、生徒も驚いていた。

ワーク2の回答 各生徒の調査内容のため省略

## ワーク3の回答

生徒の回答が多数見られたため、以下の（A）～（E）の5つに分類し、その回答の一部を報告する。

### （A）科学的根拠と数値による安全性の提示

「安全であることを科学的な基準から示す。」「安全であることを数字を用いて、身近な例（飛行機の移動による被ばく量など）に置き換えて話す。」

### （B）正しい情報発信と教育

「“放射能＝危険”という単純な印象が恐怖や誤解を生む。科学的理解を広めることが重要。」「今日の調査で危険でないことがわかったように、体験を通じて本当のことを知る。」

### （C）風評被害防止と購買行動

「福島の農産物や水産物を積極的に買う。」「福島の食材を使った料理を提供し、体感してもらう。」

### （D）個人の行動と倫理

「まずは自分が風評被害に加担しない。」「日常生活で差別的な行動や発言をしない。」「うわさに流されない。」

### （E）長期的視点と社会課題

「汚染されたものは適切に処理されていることを伝える。」「現代社会の課題として、情報リテラシーを高める必要がある。」

## ワーク+αの回答

生徒の回答が多数見られたため、以下の（A）～（F）の6つに分類し、その回答の一部を報告する。

### （A）安全性の確保

「安全性を確保したうえで使用すること。」「人体被害を及ぼすと考えられる際は必ず検査、基準を決めて周りに被害が起こらないように配慮する。」

### （B）リスク管理と対策

「危険なものにもなり得ることを理解しながら使う。」「起こりうる人的・環境的被害の予測と予防、起こった時の対処法を考える。」「悪影響が出た際の責任の取り方、対処法を定めておく。」

### （C）環境・社会への影響を考慮

「後世にどんな影響を与えるかよく考える。」「環境被害がないかをアセスメントしてから技術を使う。」「国民の意見、偏見の払拭、情報発信。」

### （D）倫理と目的意識

「目的を長期的な人類の幸福に据える。」「倫理を飛ばして商業的に使用するのは禁忌。」「人が手に負えなくなるほど発展させない。」

### （E）コストと利益のバランス

「コストと利益をしっかりと計る。」「コストが大きいなら見送る。」

### （F）正しい知識と情報

「正しい知識を持つこと。」「正しいやり方で上手に使えば生活に役立つ。」

## 4 授業内容の反省と改善

本授業は「土壌サンプルの放射線量の測定結果をもとに、風評被害という社会的側面を考える、まさに文理を横断した内容であった」と感じている。生徒たちも、測定をする中で不可視な放射線への理解を深めることができ、その結果、「無意味に恐怖することが余計な風評被害を生む」ということを理解したようであった。大変充実した授業になった。今後の課題として、主に以下の4点が挙げられた。

### ① 授業時間の確保

人権 LHR に先立ち、事前に放射線の簡単な説明を事前に行っていた。また、授業内容が充実していた。よって、2時間の連続授業でも飽きずに展開できる。

### ② 文系生徒への授業展開

今回は理系生徒を対象に授業したが、文系生徒へも対応できる内容である。文理を問わず、理解を広げたい。

### ③ **ワーク1**①②の補足

本実験では福島県飯舘村で採取した土壌サンプルのライナーを利用して、福島県の土壌の放射線量を測定した。しかし、実際には、土壌は広く分布しており、それらの合計で空間線量が決定されることを指導しなければならない。

### ④ **ワーク1**④の具体例の提示

身近な例となるように、胸のX線検診や東京-ニューヨーク間の飛行機の往復での被ばく量を提示した。他にも、他の国の年間被ばく量や、岐阜県での被ばく量などを示し、そのリスク評価を様々な視点からアプローチできるようにする。

## 5 まとめ

福島第一原子力発電所の事故やその後の風評被害への理解は、座学のみで学ばせることも可能であろう。しかし、今回は、実際に福島県の土壌の放射線量を測定するという経験が、理解をより深める大きなきっかけとなった。また、理系クラスであったこともあり、測定値からの計算結果を考察することで、風評被害の恐ろしさをより具体的に感じる事ができた。

# 人権教育

## ～イチエフの事故から学ぶ、科学、社会、そして、私たちの生活～

### 【概要】

2011年3月11日、東北地方太平洋沖地震が発生し、それに伴う津波が、東京電力の福島第一原子力発電所（通称、イチエフ）を襲った。これにより、イチエフは外部電源の喪失に加え、非常用電源も使用不可となり、発電所の冷却機能が失われた。その結果、燃料が高温となり解け落ちる「炉心溶融」を起こし、発生した水素ガスが原子炉建屋に充満し、1号機、3号機、そして3号機からの水素ガスが流れ込んだ4号機が爆発した。この爆発で、大気中に放出された放射性物質が風に乗って広がり、雨によって地上に降下した。図1に示される、事故後の地表面1 m高さの空間線量率の測定結果からも、その影響がよくわかる。

その後、国や各市町村によって除染作業（放射性物質が付着した土や植物などを除去したり覆ったりする作業）が進められてきた（図2参照）。現在、除染作業に伴い発生した除去土壌や廃棄物等は、仮置場から中間貯蔵施設に搬入されている。2045年3月までに県外で最終処分を完了することが法律で定められている。

2025年現在、事故のことがメディアに取り上げられる回数は、大きく減っているだろう。しかし、事故間もないころに起きた「風評被害」は、事故から15年が経過しようとする今なお、福島県民を苦しめている。

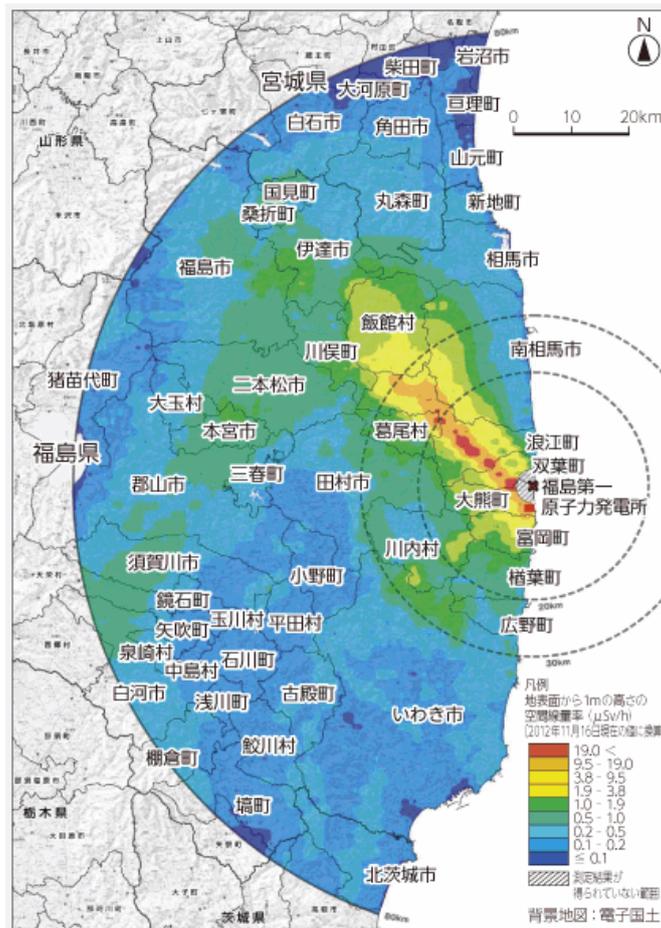


図1 事故後の1 m高さの空間線量率

出典 原子力規制委員会第6次航空機モニタリング結果（平成24年11月16日）



ワーク1 ワーク0の①に対する実験と考察 福島県の土壌の現状

① 福島県大熊町および飯舘村のある地点の、土壌サンプリング（深さ30 cm）について、「はかるくん」を用いて放射線量を測定し、表1にまとめよ。プリント下部に示した使い方を参考にせよ。（測定中は、1班に1台を統一して使う。測定の途中でははかるくんを変えない。）

時間の関係で、地表からの深さ0 cm、10 cm、20 cm、30 cm、およびバックグラウンドを測定し、時間が余れば5 cm刻みの深さも測定する（本来なら、同じ位置で3回測定し、その平均値を実験値とすべきだが、これも時間の関係で1度の測定にまとめる）。なお、バックグラウンドとは、測定対象以外の放射線源から生じる自然界の放射線や測定機器自体のノイズのことである。

- ② この結果から、除染作業として、地表をどれだけ削ればよいと判断できるか。
- ③ この測定値は、1時間あたりの放射線量である。この測定値を、年間の放射線量に変換すると、いくらになるだろうか。最も高い深さでの放射線量で計算してみよう。なお、「μ(マイクロ)」はSI接頭辞の一種で、「10<sup>-6</sup>」を表す。※「m(ミリ)」が10<sup>-3</sup>を表すのと同じ仲間
- ④ ③の値は危険な放射線量だろうか？次の値を参考に考えてみよう。

- 胸のX線検診：約 0.09mSv/回
- 東京-ニューヨーク間の飛行機の往復：約0.1 mSv/回
- 原子力や放射線を取り扱う作業員の線量限界：50 mSv/年 および 100 mSv/5年

※放射線の専門家になったからと言って、肉体の耐放射線が強化されるわけではないんだけどね…。

表1 測定結果 ((5)(15)(25)は時間があれば)

地表からの深さ [cm]	放射線量 [μSv/h]
0	
(5)	
10	
(15)	
20	
(25)	
30	
バックグラウンド	

考察

- ②除染作業として地表から削るべき深さ
- ③1年間に変換した放射線量
- ④③って危険？

【はかるくんの使い方】

- ① 土壌サンプリングからの放射線を測らないよう、「はかるくん」から遠ざける。
- ② 「はかるくん」の電源を長押しして入れる。
- ③ その状態のまま1分以上待ち、表示された数値を「バックグラウンド」に記録する。
- ④ 電源を入れたまま、土壌サンプリングの目的の位置に「+」の検出マークを近づけ、③と同じ操作をする。

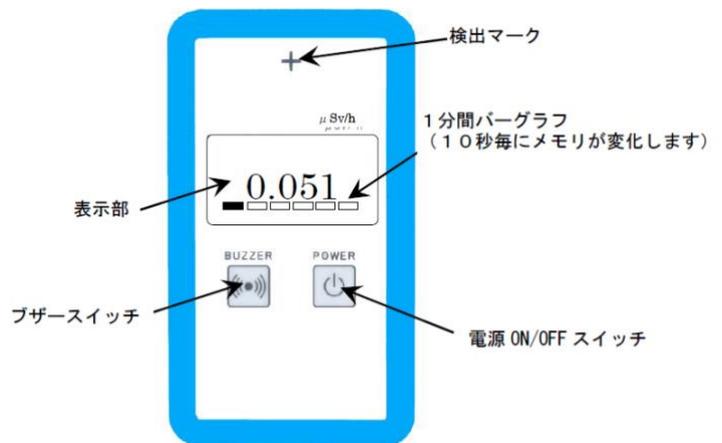


図3 はかるくんの機能

ワーク2 ワーク0の②③に対する調査

調査福島県第一原発について、風評被害や復興について、以下のキーワードを参考にしながら自分で調べてみよう。

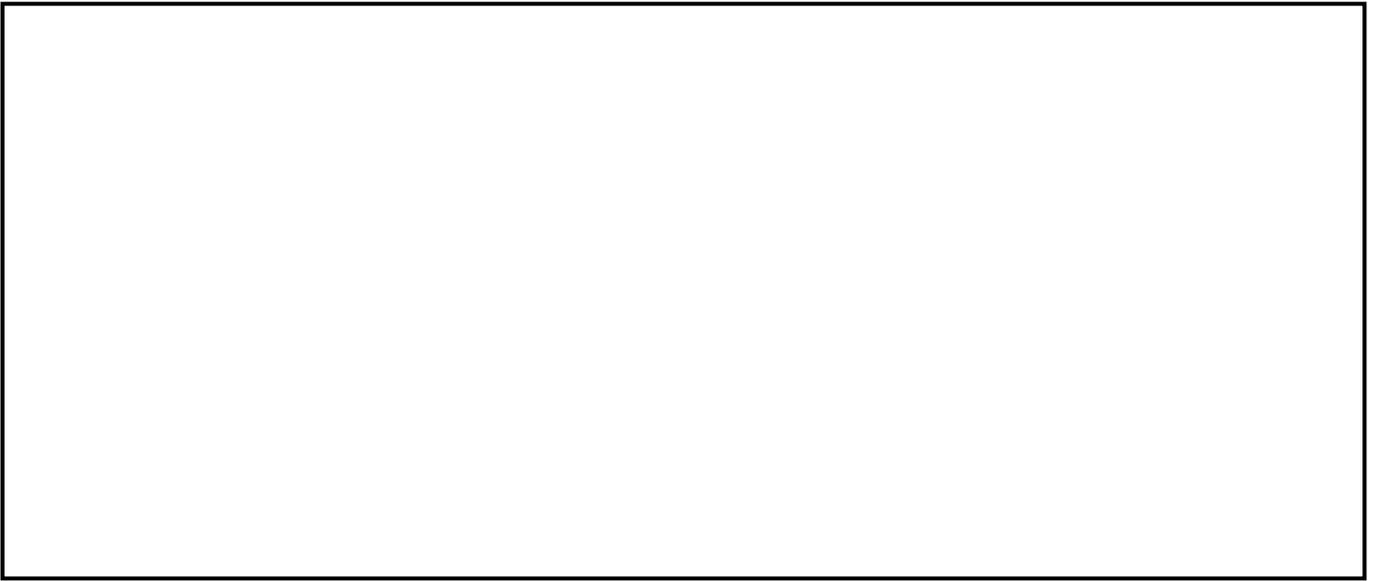
キーワード：処理水海洋放出・除染土の再利用・福島県民の避難・福島の特産品の事故前～事故後～現在の売れ行き ※インターネットで調べる際は、出典や、サイトの更新日時など、情報の確度に注意しよう。

**ワーク3** **ワーク0**の②③に対する考察

福島第一原発の風評被害をなくすために、我々ができることはなんだろうか。ワーク1やワーク2を足掛かりにして考えてみよう。

**ワーク+α**

科学技術を使っていくときに気を付けなければならないことはなんだろう？

A large, empty rectangular box with a black border, intended for the user to write their answer to the question above.